

私立大学研究ブランディング事業



「チーム『オール理大』、恐竜に挑む」

生物地球学部 生物地球学科 教授 石垣 忍

文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に、「恐竜研究の国際的な拠点形成」が採択されてから二年が経過しました。大きな柱である「モンゴル恐竜化石産出層の年代決定」は、恐竜化石から直接年代測定する研究を進め、展望が開けつつあります。併せてゴビ砂漠では、地質調査による地層対比が進められています。さらに化石探査ではハドロサウルス類幼体、モンゴル最大級の大型竜脚類骨格、そして世界最大級の恐竜足跡化石など新たな発見がありました。

もう一つの柱は、研究の過程を現在進行形で紹介し、同時に若手研究者育成の場となる「恐竜学博物館」を設立し、稼働させることでした。今年三月に学内に開館し、学生や院生が研究・実習に活用しています。観覧は、学生はもとより毎月千人を越す外部の方が訪れて「恐竜学の現場」を楽しんでおられます。

私は「オール理大で、そして社会で恐竜を楽しんでもらいたい」と心から願っています。現在、ロボット工学の教員と恐竜の運動について、また骨病理学の教員と骨組織についての共同研究が始まっています。理学や工学はもとより、学校教育・ゲーム開発・芸術・獣医学・博物館のマーケティングなど恐竜は多彩なコラボが可能です。大学の外には恐竜好きの子どもたちと、昔恐竜好きだった大人たち、そして恐竜を使った共同事業ができる研究教育機関や企業の方々がいらっやいます。さあ恐竜を題材に「おもしろい科学」を皆で楽しみましょう。Enjoy Science!



大型竜脚類と大型獣脚類の骨化石集積層発掘現場での記念写真